

ちぶね通信



社会医療法人 愛仁会 千船病院 地域医療連携ニュース
Chibune General Hospital and community health cooperation news

2018年冬号 vol.24

【血管外科】

血管外科開設しました

【講演会のご案内】

第8回大阪西部地域連携合同研究会

【循環器内科】

条件付 MRI 対応ペースメーカーについて

「平成30年度千船病院
地域連携協議会」開催報告





『血管外科』 開設のご案内

外科（血管外科）部長 松尾 辰朗

【経歴】

H13 防衛医科大学校 卒業
H19 自衛隊岐阜病院 外科
H20 三重ハートセンター 心臓血管外科
H21 明石医療センター 心臓血管外科
H25 富山大学 第一外科
H28 高槻病院 心臓血管外科医長
H30 しんあい病院 血管外科部長

【資格】

◇日本外科学会外科専門医
◇心臓血管外科専門医
◇下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の
実施基準による指導医



平成30年12月より「血管外科」を開設しました。

今後、腹部大動脈瘤・透析シャント・下肢の血管疾患を中心に診療して参ります。

【外来診療枠】火曜 午前（9：00～12：00）

木曜 午前（9：00～12：00）・午後（13：00～17：00）

特に高齢化社会において健脚でなければ、廃用が進行し全身状態も急速に悪化します。下肢静脈瘤は、下肢のボコボコとした静脈瘤化だけ（写真1）ではなく下肢のむくみ・疼痛・皮膚炎などの症状に悩んでいる人も潜在的に多いとされています。また、閉塞性動脈硬化症などの虚血性疾患は、間欠性跛行・下肢の疼痛の症状の問題だけでなく、全身の血管疾患を抱えているため、足以外の血管の問題や社会的背景など総合的にフォローしていく必要があります。

血管外科を開設するにあたり血管疾患の手術に対応できるようになります。また手術だけではなく、下肢静脈瘤であれば圧迫療法・下肢虚血疾患であれば運動療法や足の局所処置などの保存的加療も外来で継続的に診療することも重要です。術前から術後まで継続した診療をし、地域の健康促進の一助になればと思います。



講演会のご案内

第8回大阪西部地域連携合同研究会

日 時：2019年1月24日（木）19：00～20：45

会 場：大阪第一ホテル6階 モナーク

住 所：大阪市北区梅田1-9-20 TEL：06-6341-4411

【session1】19：00～19：45

演 者：千船病院 整形外科部長・関節センター長 鄭 克真 先生

「人工膝関節手術と術後の疼痛対策について～骨密度変化との関連性～」

座 長：ふじわら整形外科 院長 藤原 桂樹 先生

【session2】19：45～20：45

演 者：松尾クリニック 理事長 松尾 汎 先生

「地域医療連携から観る静脈血栓塞栓症の診断と薬物治療：実地医家の視点から」

座 長：松井クリニック 院長 松井 清明 先生

※当日は軽食をご用意しております。

※本研究会は日本整形外科学会専門医教育研修単位を申請しております（1単位：1,000円）

※本研究会は大阪府医師会生涯研修単位を申請しております（1.5単位）



条件付き MRI 対応 ペースメーカーについて

循環器内科 主任部長 板垣 毅



意識消失やめまいを伴う徐脈性不整脈（洞不全症候群や房室ブロックなど）に対する確立した治療として心臓ペースメーカーがあります。近年では心室細動・心室頻拍症例の治療として植え込み型除細動器（Implantable Cardioverter Defibrillator, ICD）や左脚ブロックを伴う心不全症例に対する両室ペーシング機能付きペースメーカー（心臓再同期療法 Cardiac Re-synchronization Therapy, CRT）なども発展してきました。これらは心臓植え込み型電気デバイス（CIED；Cardiac Implantable Electronic Device、以下デバイスと呼ぶ）と総称され、多くの心臓病患者の QOL や生命予後の改善に寄与しています。これらのデバイスを安全に使用していくためには正しい知識が必要であることは言うまでもありません。

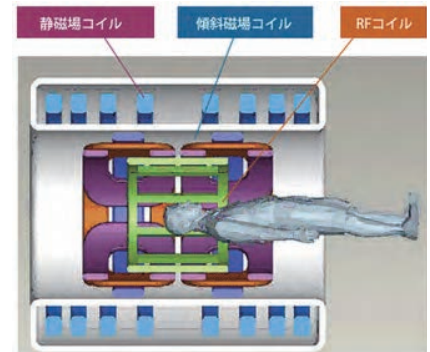
優先座席付近では、混雑時には
携帯電話の電源をお切りください。



デバイスの弱点のひとつとして外部からの電磁干渉があります。昨今、われわれの身の回りにはさまざまな電子機器が存在し、目に見えない電波や磁場を出しています。すべての電磁波がデバイスに影響を与えるわけではなく、また影響されたとしてもそれがすぐに健康被害に繋がるわけではありません。例えば、身の回りで注意しなければならない機器の例として、携帯電話、IH 炊飯器・IH 調理器、低周波治療器、体脂肪計、スマートキーシステム、電子商品監視装置（EAS）、RFID 機器などがあります。携帯電話については、総務省が H25 年に出した指針において「15cm 程度以上離すこと」とされています。詳しくは、社団法人日本不整脈デバイス工業会のホームページに記載されています。

(URL；<https://www.jadia.or.jp/>)
さて強力な磁場を利用して体内の画像を得る磁気共鳴画像診断法 MRI はひじょうに優れた検査ですが、デバイス植え込み後の患者には禁忌とされてきました。過去には重篤な合併症の報告もあります。MRI 装置の中では静磁場、傾斜磁場、RF 磁場の 3 種類の磁場が発生しており、その影響によりリードの発熱、意図しない心臓への刺激（頻拍の誘発）、デバイスの相互干渉（デバイス動作の異常）などが起こりうるとされています。

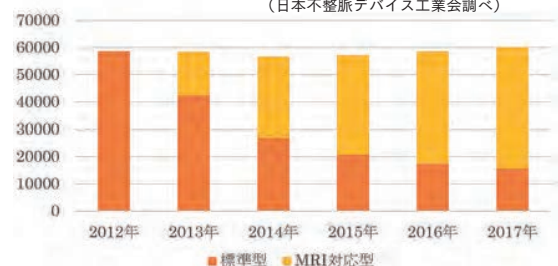
しかしテクノロジーの進歩により、一定の条件をクリアすれば MRI 撮像が可能となるペースメーカーが開発されました。本邦においては 2012 年 10 月に



保険償還となり、年々、植え込み数は増えています。注意しなければいけないのは、デバイス本体だけでなく、経静脈的に心内へ留置するリードも MRI 対応でなければならないことです。例えば、従来型のペースメーカーを植え込まれていた患者が電池消耗に伴う本体の交換手術を受けた場合、本体を MRI 対応のものにしてもリードが MRI に対応していなければ、MRI 撮影は禁忌のままです。ただ従来のリードについても各メーカーが安全性を検証して、MRI 対応の承認を得ていることがありますので、デバイス本体の交換で MRI 撮影が可能になるケースもあります。そのほかにもデバイス側の条件として、植え込み後 6 週間以上経過していることやペーシング閾値、リードインピーダンス、植え込み部位（胸部のみ）などの条件があります。MRI 装置側の条件としては、傾斜磁場スルーレートや SAR（比吸収率）、撮影部位などの条件があります。デバイス本体とリードの組み合わせによって撮影できる範囲が制限されたり、MRI 装置の出力調整が必要になることがありますし、なにより実際の MRI 撮像時にはデバイスの設定を「MRI 撮像専用」の設定に一時的に変更する必要があります。そのため、所定の講習を受けた循環器内科医、放射線科医、放射線技師、臨床工学士が常勤で勤務していることなどの施設基準もあります。

千船病院はこの施設基準を満たしておりますので、ご通院中のペースメーカー植え込み後の患者さまに MRI 検査が必要なとき、一度お問い合わせいただければ幸いです。

日本国内ペースメーカー植え込み数年次推移
(日本不整脈デバイス工業会調べ)





「平成30年度 千船病院 地域連携協議会」開催報告

地域医療部 地域医療科 田中 弘治

平成30年11月17日(土)『平成30年度 千船病院 地域連携協議会』が総勢119名(来賓56名、当院職員63名)の出席者を集めて盛大に開催されました。昨年は7月に阪神なんば線福駅前新築移転したこともあり、お披露目も兼ねて新病院にて開催致しましたが、今年度は交通の利便性が良い大阪新阪急ホテルにて開催いたしました。

第一部協議会は、吉井院長による挨拶で始まり、「肥満2型糖尿病の治療について」というテーマで糖尿病内分泌内科 高橋主任部長による講演を、その後広報として3名の先生方より各診療科の取り組みをアピールしていただきました。産婦人科・村越主任部長からは「当院産婦人科の近況～地域連携強化促進に向けて」と題した臨床実績の近況と地域連携強化に向けた取り組みを、外科(減量・糖尿病外科)・北濱医長からは「逆流性食道炎の外科治療」と題して手術実績を中心とした取り組みを、放射線科・田中科長からは新病院に移転して機器を一新したCT・MRIの紹介を中心に広報させていただきました。



(講演：高橋主任部長)

協議会の最後には、12月より千船病院(専門：血管外科)に着任する松尾部長からの挨拶がありました。次年度以降も地域の先生方にご意見をいただきながら、有意義な協議会にして参りたいと考えております。

引き続き行われた懇親会では、まず最初に来賓を代表して西淀川区医師会会長の福田弥一郎先生にご挨拶をいただきました。

「千船病院は、産婦人科救急の応需件数からも明らかであるが、西淀川区だけでなく、”大阪一”、”関西一”を見据えて努力されている診療科もあると感じた。今後が楽しみであり、地元としては頼りにしている。」とのお言葉をいただきました。続いて挨拶させていただいた愛仁会本部(千船地区担当)の伊藤常務理事からは、西淀川区医師会を中心に取り組んでいる医療・介護連携と千船地区エリアの法人グループ事業についてご案内をさせていただきました。乾杯のご発声は此花区医師会会長の板東博志先生から頂戴し、「良質な医療の提供、断らない救急が千船病院の魅力だと感じており、今後も病診の顔の見える良い関係を継続しながら地域医療に取り組んでほしい。」とのエールをいただきました。



歓談の時間には、脳卒中内科、消化器内科、泌尿器科、整形外科の各主任部長が手の込んだPR動画を用いて、取り組みをアピールさせていただきました。ご出席の方々は積極的に席を移動され、活発な交流が目立ちました。医師だけでなく看護師、地域連携担当者、相談員の方々にも多数出席いただき、今後益々の病診連携・病病連携推進に向けた現場の担当者同士の交流も促進できたように思います。これからもより多くの医療・介護関係者にご参加いただける地域連携協議会となるようスタッフ一同精進して参ります。今後も地域と蜜に連携し、地域医療の充実に努めていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻の程宜しく願いいたします。

社会医療法人愛仁会 千船病院

大阪市西淀川区福町三丁目2番39号
TEL 06-6471-9541(代表)
06-6473-9765(地域医療科直通)
FAX 06-6474-0161(地域医療科直通)
<http://chibune.aijinkai.or.jp>



理念

千船病院(千船クリニック)は医療を通じて社会に貢献します

基本方針

- ・患者さまに質の良い医療を提供します
- ・患者さまに安心と満足の頂ける公正な医療を提供します
- ・患者さまのプライバシーと権利を守ります
- ・開放型病院としての役割を自覚し効率の良い地域医療を提供します